

令和元年度第2回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和元年11月26日10時00分～12時00分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階研修室

出席委員：谷垣委員長、仲野副委員長、青木委員、荻野委員、安川委員、善積委員、木村委員、
神谷委員、芦田信委員、芦田敦委員

欠席委員：山路委員、塩見委員

事務局：浅田館長、森本次長、大槻次長、岸田係長

傍聴者：なし

- 議題：（1）平成30年度図書館年報について
（2）「第2次福知山市子どもの読書活動推進計画」について
（3）令和元年度上半期事業報告について
（4）令和2年度社会教育の重点（案）について
（5）図書館利用者アンケートの結果について
（6）その他

〈谷垣委員長挨拶〉

（1）平成30年度図書館年報について

～「平成30年度図書館年報」に基づき事務局から説明～

事務局：平成30年度図書館年報について、主要な部分を中心に説明いたします。

1ページからの「図書館の沿革」のうち、今回追加したのは平成30年の7項目です。

9ページ後半の「（2）新聞・雑誌・データベース一覧」には、昨年10月にスタートした「雑誌スポンサー制度」の数値を載せております。中央館の雑誌205誌のうち、55誌がこの制度にご協力いただいております。芦田敦嗣委員様には、株式会社福知山アークホテル様からご協力いただいておりますことを、この場でご紹介いたします。

23ページの「（2）登録者数・実利用者数」について、利用登録者数が大きく減っている理由を説明いたします。利用登録者数は新規登録により増加し、利用者からの返納で減となりますが、返納は非常に少ないのが現状です。利用者情報を管理している図書館システムは、本庁の住民基本台帳システムとは繋がっておらず、独立したシステムのため、遠方へ引越された方や、お亡くなりになられた方々の異動情報が反映されないため、今後の利用見込みの可能性が低いと思われる方々を登録者数として計上し続けていることが課題でした。そこで事務局内で検討し、平成23年にリライト方式の利用券を導入して以降に利用実績のない方の登録を抹消し、実態に近い形での利用登録者数としました。なお、登録を抹消した方は、新規登録により再度利用券を発行しますことを申し添えます。

26ページには図書館協議会の委員の皆様のお名前と、活動報告として協議会での協議事項、

自主研修会の内容を掲載しております。以上、平成30年度図書館年報の報告といたします。

委員：入館者のカウント方法はどのように計上しているのか。

事務局：中央館の入口に設置しているセキュリティゲートに入館者をカウントする機能があり、ゲートを通過した延べ人数を計上している。分館では職員の手作業によりカウントしている。

委員：相互貸借は、分館と中央館の間の貸借も計上されているのか。

事務局：分館と中央館や、分館間の貸借は対象外。市外図書館との貸借のみを計上している。

委員：利用券に関して、利用者側からの届出が必要であることを始めて知った。私の家族も図書館へ届出をしないまま市外へ出ている。カードは手元にあるが、戻ってきた際に再び使用することはできるのか。

事務局：登録内容に変更がある場合は届出いただくよう、図書館利用案内へ掲載し、利用登録時に説明しているが、十分には周知できていない。利用券は、福知山市へ戻られた時に情報を更新することで、再び利用できるようになる。

委員：転出した方の利用券はどうなるのか。

事務局：利用券は3年おきに更新が必要で、住所や電話番号等に変更がないか、健康保険証や運転免許証等により確認の上更新している。新規登録または前回更新から3年以上経過し期限切れとなっても、皿誌スポンサーは11月現在で83誌に協力を得ていることを併せて報告します。

委員：私は谷さんの講演会に参加した。若い谷さんならではの、様々な選書の話が聞けて良かった。ビブリオバトルに関して、学校読書ボランティアとして関わっているが、たまたま図書館カウンターで小学生に声をかけたところ、小学生数名がバトラーとして参加してくれた。図書館のカウンターと地域が結びついたら、図書館の様々なことに参加してもらえるのでは。今回は従来のメンバーによる実施から、新しい形になれたと思う。

委員：様々な講座等に参加することで、幅広い図書館のあり方が分かると思う。

(2)「第2次福知山市子どもの読書活動推進計画」について

～資料に基づき、事務局から説明～

事務局：平成30年度に新たに実施した内容を中心に説明を行う。第2次計画で参加目標としていた「パパママ学級」に参加することができた。平成29年度に妊婦対象の「ゆりかご広場」に参加し、その後担当課と交渉を続けて目標が達成できた。「パパママ学級」は、初めて妊娠された方とその配偶者を対象に、読みきかせの大切さや、妊娠・出産に関する本やCD等の紹介、新生児から利用券が作成できること等の案内により、パパママ学級終了後に、その足で図書館にいられて新規利用登録に繋がっている。

7ページの「市立図書館で本に会う」の小学校の社会見学について、平成30年度は大雨や台風により中止となった学校もあるが、参加された14校のうち4校に「本の貸出し体験」を実施した。児童が自分で選んだ図書館の本の貸出しを行い、熱心に参加する児童達の様子が見られた。今年度は8校が貸出し体験をされており、少しずつ広がりを見せている。

委員：第2次子どもの読書活動推進計画を策定後、協議会の場で随時報告されることにより、その後の経過がわかるようになった。

委員：6ページにある連絡会とは、どのようなものか。実施状況について、中学校での学校司書によるブックトークの実態を教えてください。

市内の中学校区ごとに学校司書が配置されているが、高校の学校司書は専門的な知識を持っておられるので、年に1回程度、福知山市内の小学校、中学校、公立高校、私立高校、大学の司書が交流できる活動の場があれば有益と考える。

事務局：子どもの読書活動推進連絡会は、市の行政の中で子どもと読書に関わる機関である教育委員会や子ども政策室に委員を募り、推薦された職員で組織されている。各委員からは担当課での取組みの実績を報告してもらい図書館で取りまとめて、この協議会で報告している。報告については、第2次計画の中で年度ごとに行うこととしており、平成28年度から行っている。

学校司書については、中学校の学区単位に1人配置されている。学校司書の活動は、各学校とのやり取りとなるため、学校により異なると聞いている。図書室の飾りつけや読みきかせ等の活動が、各学校に入っておられる学校ボランティアさんとの連携がしやすい学校、そうでない学校がある。中学校は、なかなかそこまで入って行けないと聞いており、その点は今後の課題と考えている。学校との連携について、平成29年度から学校司書研修会を図書館で開催しており、市教委とやり取りして業務の中で受講いただけるように同じ市の組織であれば調整しやすいが、公立高校や私立高校となるとつてがなないため、そこまでできていない。例えば福知山高校とは図書館のティーンズコーナーで毎年POP展示を行っており個別の繋がりはあるが、他の高校と集まるようなことはできていないのが現状。逆に言えば、その部分が新しい計画の目標になってくる。現在の第2次計画は今年4年目で、来年が最終年度であり次期計画を策定する年となる。新しい取り組みに向けてのご意見をいただければと思う。ただ第2次計画は仲野副委員長、神谷委員に策定委員としてお世話になり、しっかりと作りこんだものであることから、今までやってきたことを精査して第3次計画に反映していきたい。

委員：連絡会のメンバーは、全ての小学校、中学校からの選出ではないのか。

事務局：各学校ではなく、教育委員会と子ども政策室の職員により構成されている。

委員：学校司書は中学校単位とのことであるが、夜久野は川口と一緒にブロックになっている。1日だけ行っておられるのか。

事務局：各学校での出勤日数は把握していないが、夜久野と川口で兼務をされている。また三和と六人部で兼務となっており、学校司書の数は減っている。学校の統廃合により学校数が減っている関係で、厳しい状況となっている。

委員：夜久野学園といっても中学校と小学校があり、実質は2校であり、三和も同様だと思う。中学校単位というところで、学校司書の人数の見直しをお願いしたい。採用の担当課はどこか。

事務局：学校教育課が担当している。学校教育課も、学校司書がいるのといないのとでは、子ども達の本への関心の持ち方が全然違うので、学区に1人を維持していきたいと担当課は言っている。今年、図書館で学校司書の研修を2回行った際に、兼務で思うような活動ができないジレンマがあると聞いている。

委員：以前は4時間勤務だったが、今は3時間の勤務になったと聞いている。作業が多くなり、子

どもと触れ合う時間が少なくなると思う。こういう意見があることを伝えてほしい。

委員：学校司書はすごく忙しくて頑張ってもらっているが、時には学校側から頼まれて雑務を手伝うこともあり、立場的にそのことに対して反論もできないと聞く。私が学校ボランティアで入っている学校の司書とは出会ったことがない。3時間であっても学校司書である以上は学校ボランティアとの連携も必要だと思う。計画に連携と書いてあるが、実際には連携はないような状態なので、具体的な時間数や人員の確保ができれば嬉しい。

先日のブックスタート総会でもらったアンケートのまとめに、回答数308の内1/3が、4カ月までに読みきかせをされている。以前は4カ月のブックスタート時に「わあーこの子、絵本を見るんですね」と、お母さんが発見する状況だったのが、今では「1（又は2、3）カ月頃から読みきかせをしています」といったお母さんが増えていて、4カ月までに100名近くが読んでおられる。それは明らかにブックスタート等の活動が広がったことの成果で、幼い時から本を読む流れはできてきていると思う。ただし、全く読まない両極端な面もある。

委員：今のパパママ世代は、小さい時から絵本に親しんだ世代。その子たちがようやく親になり、次は自分の子どもに繋がれている。書店に行くと、赤ちゃん絵本が充実しているので、そこにターゲットを当てて読書人口を増やしていくことが大切だと思う。4カ月でブックスタートは遅いのではないかと思うくらいで、2カ月でも反応していると聞くので、これは大事なことだと思う。たくさん関係機関が読書活動の推進に関わっていただいているが、地域公民館の中にある図書室は、どのように連携し、どのような本があって、どのような方が利用されているのか、この計画の中には出てこないのを教えてほしい。

事務局：地域公民館の図書室は、おそらく整理されることない状態と思われる。新刊本も入らず手付かずの状態となると地域の方の足が遠のくので、今後、遠出ができない地域の方に身近に利用できる施設としての見直しの必要性が出てくるのが考えられる。現在は、図書館との連携は一切ない状態である。

委員：以前は図書館日新分館があったが、どうなったのか。

委員：日新分館に行ったことがあるが、ずっと前からあると思われる本が並んでおり、静かだが利用する人は少ない。

事務局：日新分館は平成26年に所管替えがあり、現在は公民館の図書室として運営されている。

委員：日新公民館の図書室は静かなので、中高生が学習する姿はよく見かけるが、図書の貸出利用はないのでは。

委員：公民館との連携を始めるために、蔵書の内容を共有できれば良いのではと思う。

（3）令和元年度上半期事業報告について

～資料に基づき、事務局から説明～

委員：図書館は本を借りるだけでなく、様々な取組みがされている。これが市民の皆さんに浸透して行ってほしい。

委員：項目をもうひとつ広げてほしい。「子どもの本を読む会」のボランティア活動には、図書館には本の準備等の協力をいただき、感謝している。黒丸を付けてひとつの項目としてほしい。

事務局：次回から掲載します。

この報告には載せていないが、9月に視覚障がい者協会が交流プラザで例会をされた後、図書館を案内した。その際に拡大読書器について、人通りの多い雑誌コーナー前に設置していたが「周囲に気兼ねなく使いたい」と要望があり明智光秀コレクション付近に場所変更した。また12月1日からは「閲覧専用席」を設ける。中学や高校の試験期間中は学生による閲覧席の自習利用が非常に多く、図書館で読書を楽しみたい方から「席がない」との声が多くあり、閲覧専用の席を設けることとした。

先程配布した追加資料（戦国武将をテーマにした3市連携合同展示）について、福知山市、丹波市、朝来市の3市連携が本格的にスタートする。令和2年1月4日から朝来市で広域貸出が開始されることになった。すでに広域貸出を実施している福知山市と丹波市との足並みが揃い、各市利用者の相互の貸出利用が可能となる。それに合わせて、「戦国を生きた武将たち」と題して、3市で同じテーマの展示を行う。

（4）令和2年度社会教育の重点（案）について

～資料に基づき、事務局から説明～

事務局：令和2年度の「社会教育の重点」案の作成にあたり、平成31年度版を元に委員の皆様の御意見を賜りたい。

委員：図書館ではここ1年で、幅広い催し物を開催したり、様々な情報が集まってきている。図書が中心の図書館から、一歩先を行く図書館へと拡げていけたらと思う。

委員：文化活動、読書の楽しみ、発信基地、と小さな項目が置かれているが、図書館はもっとすごいものというイメージがある。ひょっとすると市全体の考え方を変えることになるのかもしれないので、この中に書けないのかなと思ったりもする。図書館があつて、そこに公民館活動や生涯学習があるような形で、あらゆる地域社会の課題や地域づくりに生きていくための情報発信をする場所、というような気持ちがあれば良いと思う。

委員：図書館は読書からスタートしているだけではない。これからは図書館を核にして、まちづくりのモノや情報が全て集まってこなければ、十年先まで生き延びられない。福知山の図書館を、もっと拠点的なものに位置づけしてみたいと思う。毎年、社会教育の重点が作成されているが、少しずつ変えていかねばと思う。図書館の利用者は限られているので、ビジネスマンの利用促進にも力を入れていきたいということで、商工会議所を通じて芦田委員に来ていただいております。このような観点からも考えていただけると嬉しい。

委員：学校司書は読書活動啓発を目的として配置されているが、1日4時間から3時間に減り、中学校1ブロックに1人から2ブロックに1人に減った。市も教育委員会も意義は重々わかっているが、全て市の財政事情によるものであり、非常に残念。学校司書としての仕事は多いが時間に制限があり、ボランティアのように献身的に働いて頂き感謝している。子ども達にとっては有益な活動をして頂いているので、財政難の中ではあるが、現場としては拡充をお願いしていきたいと思っている。先程、学校司書が学校の雑務をされているという話があったが、あつてはならないことで、もし本当であれば大問題。そのようなことがないよう、校長会で働きかけをしていきたい。十年前位であれば業務の線引きが曖昧であったかもしれな

いが、時間削減による業務の圧迫があってはならない。

先日、気になったニュースで「大学生の2人に1人が本を読まない」とあった。子どもの活字離れと言われているが、小学校では様々な取組みを行っており、そのようなことはないと思われる。多角的に様々な人が入ってきたり、子ども同志で活動しながら、図書館にふれあう活動が多い。子どもが図書委員会で活動したり、先生方が全校集会でおすすめ本を紹介したり、子ども達同士がおすすめ本を書いて展示したり、読書ボランティアが月に1～2回読み聞かせをされている。先生方が違う学年や学級に入って新鮮な読みきかせで刺激を受けたり、移動図書館にも来ていただいている。図書委員会は休み時間にキャンペーンをして図書館へ呼び込んでいる。枚挙にいとまがないが、子ども達も抵抗感がなく受入れて図書に親しんでいるのが、本校における現状となっている。これがなぜどんどん離れていくのか。私達の子どもの時代は本を読むくらいしか、することがなかった。テレビも一家に一台しかなく、親がニュースを見ていれば、本でも読んで活字に親しんでいたが、今はすることが多すぎる。スマホなどの情報端末が発達していて、ユーチューブを見ている子どもたちが多し。保護者もユーチューブが見られる機械を子どもに与えておけば安心感を持つ中で、先日の大阪のような事件（大阪市に住む小学6年の女子児童が行方不明になり、6日後に栃木県小山市で保護された事件。SNSを通じて容疑者が女子児童を誘い出した。）が起きている。本校でも、親の帰りが遅いためユーチューブばかり見ている児童がいる。このような中で、図書や読書をどう継続し習慣づけしていくか、こうした多くの取組みが後々にも活かされるようなシステムができればと思っている。

委員：そういう時代だからこそ今、図書館の役割が求められていると思う。読書中心の図書館から違う形の観点で捉え、地域の人を図書館に結び付けることが求められているのでは。今後のあり方として「図書館の推進」の中にそういった文言を含めることができたらと思う。皆さんが心寄せる図書館でありたいという希望を込めた方針がなされることを望んでいる。

事務局：今ご意見をいただいた中で、人と人との出会う場所であったり、色んな方の居場所としての図書館、まちづくりの核となる場所として図書館がどんどん成長していける、ということを感じているところであり、そういった文言を考えていきたい。

委員：行政における図書館のあり方という部分の位置づけが、十分に認識されていない。今後到来する高齢化社会の影響で、図書館に費やされる時間が非常に少ないと思う。

委員：一昨年、図書館に入ってすぐ右側にあったスペース（旧いこいのへや）が、委員長と副委員長が賛成され別の使われ方（福知山産業支援センター）をすることに既に決まった、と報告を受けた。飲食しながら会話もできるスペースは新館の特徴として設置されたが、先程の閲覧専用席の話では、受験生が一時的に多く集まり、高齢者が雑誌等の閲覧ができないことがあるため、閲覧専用席を確保するとのことであったが、飲食会話可能なスペース（旧いこいのへや）のその後の利用状況はどうなのか。産業関連で使用され蔵書も増えて、図書館の機能として必要とも思ったが、現在あまり使われていないのであれば、図書館の協議会でチェックをして有意義な使われ方になるようにすべきでは。入ってすぐの利便性が良い場所でお菓子を食べながら本も読める、話もできる、そういうスペースは魅力的だと思う。

事務局：福知山産業支援センターは、この1月で丸2年を迎える。それを記念して大きなイベント

を計画中と聞いており、2月には図書館内の研修室でコラボ連携企画を予定している。昨年も「産業支援センターの上手い活用方法」について研修室でセンター長が講演を行い、その際に図書館として関連ビジネス本を展示し、20人以上の参加があった。センターに一度相談に来られた方はリピーターとして来られている。完全予約制、何度利用してもOKで無料なので、起業やビジネス改革や支援、農業の相談など、人気が高く予約がなかなか取れないと聞いている。センターを図書館内に設置する際には、随分反対もあったと聞いている。図書館として大切な場所であったが、それ以上に有益に活用していただいている。せっかく図書館内にあるので、さらなる連携をしていきたいことを担当課には伝えており、詳細はこれから練っていく。

委員：当時は市長と会見し、決定事項として伝えられた。そこで切り換えて、ビジネスの人も来てもらえる図書館にしようということでセンター長の講座を開催したところ、新しい層の利用に繋がり成果となった。一過性とならないために、図書館に何が足りないのかアンケートを取りながら新しい図書館にしていきたい。その後どうなっているのかを追跡して把握することも必要。ビジネスにも開かれた図書館として、逆転の発想でプラスにしていきたい。

委員：「障がい者」の表現に違和感があるので、「障がいのある人」と表記しては。

事務局：了承しました。

委員：事業報告を聞いて、明智光秀の講座は参加できなかったが興味はある。こういった社会で話題になっていることを発信していく活動は良いと思う。待っていても急に本が好きになる訳でもないし、本が好きな方ばかりでもないの、切り口を作り、図書館に来てもらう動線づくりをしてほしい。大河ドラマが終わり翌年になっても、世の中の人が興味を持ちそうな話題と図書館との接点を上手く作る必要があると、急に読書習慣が身に付くわけではないので、切り口のテーマ等をこの場で議論出来たら前向きな意見が出てくるのではないかと思いますので、機会を設けてほしい。

委員：今の意見を踏まえて、重点項目を練っていただきたい。

(5) 図書館利用者アンケートの結果について

～資料に基づき、事務局から説明～

事務局：福知山市立図書館利用者アンケートの調査結果について報告します。アンケート実施にあたり、本年度第1回協議会において実施の報告を行った際に、委員の皆様から頂戴しましたご意見を参考に、神谷委員をはじめとする福知山公立大学の教員方にアドバイスを頂きながら実施しました。期間は令和元年9月3日（火）から13日（金）まで、月曜休館日を除く10日間実施しました。回答数は、中央館894、三和分館74、夜久野分館115、大江分館80、4館合計で1,163と、各館とも目標数を大きく上回りました。調査結果の詳細は、別紙「調査結果（単純集計）」のとおりです。集計結果については、教育委員会及び図書館協議会への報告後、広報カードの提出、図書館ホームページや館内閲覧により調査結果の公表を行います。

委員：このアンケートは入館者のアンケートであり、市民向けのアンケートではないので、その点を考慮して内容をご確認ください。

(6) その他

委員：私は三和分館によく行くが、先日大型絵本を借りると、米袋を再利用した手作りの貸出袋を用意してくれた。ミシンで縫い、重い大型絵本2冊を入れても大丈夫なしっかりした作りになっている。おはなし会に参加したお子さんへの手作りスタンプカードも、以前から活用されている。昨日行った際には、館内に授乳スペースを作る計画があることを聞いた。スタッフが自分達でできることを工夫し、あの手この手で頑張ってもらっている。

三和分館はどこにあるのかと尋ねられることが多く、実際、本当にわからない。何度かこの場でも話したが、9号線から曲がる所と、その次に曲がる所の2か所に案内表示を設置して、どうしたら利用者が三和分館に行けるかを考えてほしい。

事務局：先程の閲覧専用席の件も、利用者からの声で設けた。新聞では学生の自習利用の可否について議論されている。ここは駅前でもあり学生の利用により活気づけをしたいと考えている。

委員：少数派の意見も尊重することが大切ではあるが難しい。よそにない図書館でありたい。

事務局：まだまだ伸びしろがあると感じているので、一つずつ成長していきたい。

委員：利用者アンケートの結果では、開館時間9時の要望が多い。以前からこのような要望が多くて、検討の結果、現在の形で収まっているのか、それとも人件費や光熱費等の問題も含めて検討の余地があるのか。

事務局：新中央館の開館にあたり当時の図書館協議会において、全国的には「24時間365日開館」の図書館もある中で、新中央館はどう運営するのか検討が行われた。その結果、旧中央館では休館日としていた祝日を、新中央館では利用者の利便性を考慮して開館日とすることになった。同様に開館時間と閉館時間についても検討が行われた。現在は朝10時開館に伴い、職員が9時に出勤し開館前の準備を行っている。また夜20時までの開館にあたり、早番・遅番の交代要員がシフト上必要となる。例えば朝9時に開館となると、朝8時に職員が出勤することになり、さらなる人員が必要となる。そういった検討を重ね、人員配置や財政面を考慮し、現在の10時開館20時閉館、土日祝は18時閉館で落ち着いた経緯がある。

委員：時代に応じて、見直しが必要かもしれない。

事務局：9時開館の要望については、今回のアンケートの他、声の箱にも時々意見がある。財政削減や人員削減の中で、開館時間を拡大することを議論できる状況にないのが現状である。

委員：アンケートでは90人の要望がある。今の自分は9時間開館を必要とする状況でないが、将来的にはニーズが高まることも考えられる。

委員：新中央館開館前にはアンケートをとり、開館時間についても長い時間をかけて検討した経緯がある。時代の流れとともにニーズは変わるので、定期的な見直しをお願いしたい。

事務局：他市の図書館の例を検討してはいるが、この近辺で20時まで開館している図書館は少ない。当館は長く開けていることになっている。

委員：定期的な見直しをお願いしたい。